

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成27年7月15日

【四半期会計期間】 第35期第3四半期(自平成27年3月1日至平成27年5月31日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第34期 第3四半期 連結累計期間	第35期 第3四半期 連結累計期間	第34期
会計期間		自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日	自 平成26年9月1日 至 平成27年5月31日	自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日
売上高	(千円)	10,422,654	10,281,646	13,727,896
経常利益	(千円)	437,436	562,532	507,766
四半期(当期)純利益	(千円)	277,725	395,823	282,979
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	298,340	396,927	305,039
純資産額	(千円)	6,523,860	6,894,879	6,570,166
総資産額	(千円)	16,934,409	16,877,090	16,811,940
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	23.38	33.18	23.82
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	23.16	32.68	23.48
自己資本比率	(%)	38.1	40.5	38.4

回次		第34期 第3四半期 連結会計期間	第35期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日	自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	6.16	15.15

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（ヘルスケア事業）

第1四半期連結会計期間において、第三者割当増資の引受けにより、株式会社セレンディプスの株式（議決権90%）を取得し、同社を連結子会社といたしました。

この結果、平成27年5月31日現在では、当社グループは、当社及び連結子会社7社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成26年9月1日～平成27年5月31日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢に改善が見られるなど緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、個人消費の弱さや海外景気の下振れなど懸念要因もあり、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する健康食品市場は、消費増税による消費回復の遅れに加え、広告投入による顧客獲得競争や価格競争の面で企業間の競争は一段と激しさを増しており、厳しい経営環境が続いております。

主力のOEM部門においては受注が堅調に推移し増収となったものの、前期に行った不採算店舗の閉鎖が影響し店舗販売部門が減収となったことや、厳しい経営環境下、通信販売部門及び卸販売部門が減収となったことなどにより、当第3四半期連結売上高は10,281百万円（前年同期比1.4%減）となりました。損益面については経費節減効果により、営業利益602百万円（前年同期比22.4%増）、経常利益562百万円（前年同期比28.6%増）となり、加えて投資有価証券売却益など特別利益を計上したため、四半期純利益は395百万円（前年同期比42.5%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ヘルスケア事業

・OEM部門

主力事業である当部門は、定番商品の堅調に加え、青汁、スムージーなど一般食品寄りの商品ならびに酵素、酵母関連商品が好調に推移いたしました。さらに、ココナッツオイル、えごま油などのブーム商品の特需が加わったことにより、売上高は前年同期比3.0%増となりました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、引き続きフィリピンにおいて美容商材が安定的に推移したほか、シンガポールにおけるAFC代理店からの受注増により、売上高は前年同期を上回る結果となりました。

・通信販売部門

インターネット販売は、引き続き顧客ニーズに合った広告展開が奏功し好調に推移したものの、部門全体では、昨年、話題となった希少糖関連商品の受注が減少したことなどにより、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

・卸販売部門

主要販路であるドラッグストアや量販店の店頭において、サプリメント「ハートフルシリーズ」にアイキャッチシールを導入し拡販に努めたほか、顧客ニーズをいち早く捉え、ココナッツオイルやチアシード商品をスピーディーに製品化し配荷いたしました。しかしながら、昨年の希少糖ブームにより好調であった「レアシュガーシロップ+オリゴ糖」の受注が減少したことなどが影響し、当部門の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

・店舗販売部門

当部門は“百貨店における店舗販売”“百貨店外商部での販売”“百貨店とタイアップした通信販売”の3つを販路としております。健康食品の定期購買を積極的に提案し、顧客の囲い込みによる収益の安定化に努めるとともに、ゼリー形状のサプリメントの拡販に注力いたしました。また、首都圏及び大阪市内においては訪日外国人観光客による売上増加がありました。しかしながら、前期に行った不採算店舗の閉鎖が影響し、当部門の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高9,296百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益917百万円（前年同期比13.7%増）となりました。

医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、新たな取扱製品を投入したことに加え、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤40品目について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、同業他社の製品と比べ効能効果の同等性が極めて高いこと及び患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。

また、一般用医薬品事業についても、既存のルートに加え、OEM（相手先ブランド）の提案など、積極的な営業活動及び販売促進活動などを行いました。

しかしながら、本草製薬(株)の医薬品の売上高が、工場移転に伴う欠品の影響などにより前年同期を下回ったことに加え、(株)エーエフシーにおいて医薬品を販売していた不採算店舗を閉鎖したことが影響し、医薬品事業全体では、売上高が985百万円（前年同期比8.4%減）、営業利益47百万円（前年同期比32.7%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ346百万円増加し、8,463百万円となりました。この増加要因は主として、有利子負債の返済を進めたことなどにより現金及び預金が127百万円減少した反面、原材料及び貯蔵品が196百万円、流動資産のその他が137百万円増加したことによるものであります。

固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ281百万円減少し、8,413百万円となりました。この減少要因は主として、投資有価証券の売却などにより投資その他の資産のその他が163百万円減少したことに加え、当社において既存倉庫の隣接地を取得したことにより、土地が166百万円増加したものの、減価償却などにより有形固定資産全体では116百万円減少したことによるものであります。

流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ6百万円減少し、6,626百万円となりました。この減少要因は主として、当社の社債が償還期限が1年内となり固定負債から振替られた影響などにより流動負債のその他が347百万円増加したほか、支払手形及び買掛金が341百万円増加した反面、長期借入金への借換えなどにより短期借入金が818百万円減少したことによるものであります。

固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ253百万円減少し、3,355百万円となりました。この減少要因は主として、短期借入金の借換えにより長期借入金が222百万円増加した反面、流動負債への振替などにより社債は350百万円減少したほか、固定負債のその他が132百万円減少したことによるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ324百万円増加し、6,894百万円となりました。この増加要因は主として、四半期純利益の計上により利益剰余金が276百万円増加したほか、新株予約権行使による自己株式の交付により、自己株式が107百万円減少したものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は80,010千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年7月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,189,720	12,189,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	12,189,720	12,189,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年3月1日～ 平成27年5月31日		12,189,720		1,405,498		1,482,684

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 222,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,966,800	119,668	
単元未満株式	普通株式 620		
発行済株式総数	12,189,720		
総株主の議決権		119,668	

【自己株式等】

平成27年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	222,300		222,300	1.82
計		222,300		222,300	1.82

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年3月1日から平成27年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年9月1日から平成27年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,119,317	3,991,317
受取手形及び売掛金	2 1,689,861	2 1,774,903
商品及び製品	870,795	938,271
仕掛品	552,629	539,150
原材料及び貯蔵品	662,069	858,839
その他	227,951	365,074
貸倒引当金	5,602	4,245
流動資産合計	8,117,022	8,463,311
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,047,322	2,899,035
土地	4,075,187	4,241,825
その他(純額)	885,348	750,426
有形固定資産合計	8,007,859	7,891,287
無形固定資産		
のれん	6,122	5,356
その他	39,829	45,429
無形固定資産合計	45,951	50,786
投資その他の資産		
その他	664,475	500,679
貸倒引当金	23,369	28,973
投資その他の資産合計	641,106	471,705
固定資産合計	8,694,917	8,413,779
資産合計	16,811,940	16,877,090
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 1,645,359	2 1,986,431
短期借入金	3,796,273	2,977,657
未払法人税等	41,679	120,735
賞与引当金	92,700	139,050
ポイント引当金	45,000	43,000
その他	2 1,012,007	2 1,360,002
流動負債合計	6,633,019	6,626,876
固定負債		
社債	350,000	-
長期借入金	1,992,402	2,215,234
役員退職慰労引当金	367,655	364,545
退職給付に係る負債	208,219	218,420
負ののれん	3,943	3,520
その他	686,534	553,614
固定負債合計	3,608,754	3,355,334
負債合計	10,241,773	9,982,211

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,474,355
利益剰余金	3,777,680	4,054,276
自己株式	228,223	121,164
株主資本合計	6,437,639	6,812,965
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,705	18,405
その他の包括利益累計額合計	13,705	18,405
新株予約権	118,820	57,910
少数株主持分	-	5,597
純資産合計	6,570,166	6,894,879
負債純資産合計	16,811,940	16,877,090

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
売上高	10,422,654	10,281,646
売上原価	7,258,047	7,223,579
売上総利益	3,164,606	3,058,066
販売費及び一般管理費	2,672,312	2,455,682
営業利益	492,294	602,383
営業外収益		
受取利息	745	249
受取配当金	10,110	19,690
受取賃貸料	11,625	14,791
負ののれん償却額	422	422
助成金収入	13,121	-
その他	9,809	6,736
営業外収益合計	45,835	41,891
営業外費用		
支払利息	85,219	72,743
その他	15,473	8,999
営業外費用合計	100,692	81,743
経常利益	437,436	562,532
特別利益		
投資有価証券売却益	2,863	32,911
新株予約権戻入益	-	876
特別利益合計	2,863	33,787
特別損失		
固定資産売却損	-	747
固定資産除却損	3,329	1,558
特別損失合計	3,329	2,305
税金等調整前四半期純利益	436,971	594,014
法人税、住民税及び事業税	189,448	220,418
法人税等調整額	30,202	18,631
法人税等合計	159,246	201,787
少数株主損益調整前四半期純利益	277,725	392,227
少数株主損失()	-	3,595
四半期純利益	277,725	395,823

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	277,725	392,227
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,615	4,699
その他の包括利益合計	20,615	4,699
四半期包括利益	298,340	396,927
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	298,340	400,522
少数株主に係る四半期包括利益	-	3,595

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年9月1日 至 平成27年5月31日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、新たに株式会社セレンディプスの株式を取得したため、連結の範囲に含めておりま ず。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
受取手形割引高	119,905千円	140,189千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
受取手形	7,946千円	4,628千円
支払手形	133,458千円	150,017千円
その他(設備関係支払手形)	2,136千円	3,954千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年9月1日 至 平成27年5月31日)
減価償却費	376,941千円	322,026千円
のれんの償却額	342千円	7,602千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月26日 定時株主総会	普通株式	118,779	10	平成25年8月31日	平成25年11月27日	利益剰余金
平成26年4月9日 取締役会	普通株式	59,389	5	平成26年2月28日	平成26年5月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年9月1日 至 平成27年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月26日 定時株主総会	普通株式	59,389	5	平成26年8月31日	平成26年11月27日	利益剰余金
平成27年4月9日 取締役会	普通株式	59,836	5	平成27年2月28日	平成27年5月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,346,834	1,075,820	10,422,654
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	9,346,834	1,075,820	10,422,654
セグメント利益	806,935	70,185	877,120

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	877,120
全社費用(注)	384,826
四半期連結損益計算書の営業利益	492,294

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,296,010	985,635	10,281,646
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	9,296,010	985,635	10,281,646
セグメント利益	917,233	47,210	964,443

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	964,443
全社費用(注)	362,059
四半期連結損益計算書の営業利益	602,383

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	23円38銭	33円18銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	277,725	395,823
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	277,725	395,823
普通株式の期中平均株式数(株)	11,877,981	11,929,099
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	23円16銭	32円68銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	114,714	182,331
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2 【その他】

第35期(平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)中間配当については、平成27年4月9日開催の取締役会において、平成27年2月28日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	59,836千円
1株当たりの中間配当金額	5円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成27年5月25日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年7月13日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 向 眞 生

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 大 須 賀 壮 人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの平成26年9月1日から平成27年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年3月1日から平成27年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年9月1日から平成27年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の平成27年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。